



松木 薫さんの思い出

昭和28(1953)年6月13日生 熊本県
昭和55(1980)年5月頃
スペイン留学中に拉致(26歳)

斉藤文代さん(薫さんの姉)

平成17年1月13日、東京連続集会発言から要約

父母が戦後、一生懸命二人とも共稼ぎしております。薫が生まれてからは、私が8つ下の薫をいつも連れて、どこへ行くにも一緒におんぶしたり引っ張って歩いたりして面倒を見てきましたので、私が母親みたいな役をさせていただきました。全然手がからない弟でした。弟は私たちにとっては大事な宝物でした。父親は男の子がほしくてほしくて、「男の子が生まれるまで産んでくれ」と母に言ったらしいんです。女ばかりでしたから。母は「そんなに産めない」と言っていたらしいんですけど、5人目に薫が生まれて、それは父はとっても喜んで。父は子煩悩で優しい顔をしておりまして。私が早く結婚しましたので、父親たちと一緒にいる時間がちよっと少なかったかな、と今思えば後悔しております。



救う会熊本メンバーたちと署名活動をする斉藤文代さん

父は、「勉強したければ、父ちゃん頑張るよ」と一生懸命言ってくれましたけど、私たちは高校を卒業したら父母のような温かい家族を夢見ていましたので、早く結婚して子どもを産んでと思っていましたから、高校で十分でした。薫は勉強が好きで、小さいときから一生懸命机に向かって本を読んだり勉強したりしておりました。それで薫は、父にお願いして大学も行かしていただいた。最後にスペインに行くときにも、勉強して帰って来たら父たちと一緒に暮らすから、と約束して行ったのです。薫は1年経ったら帰ってきたと思うんです。そしていろんな自分の人生計画を立てていたのだから、私は今も信じております。ですから、本当にも薫を拉致した人が憎いです。

母は今も病院に入院しています。毎日時間がある限りは行きましますけども、私が出たということがありますね、今は分らないんです。小泉さんが訪朝された時にも、私も今も病院に行けなくて、死亡という事を言われた時に、私はその日はつらくとも病院に行けなくて、死んだら「テレビを見た」って私に言うもなくて、次の日に行ったんです。そして「テレビを見た」って私に言うもなくて、私もすぐピンと来て、「何のこと。薫って名前はたくさんいるんだから、それは違う人よ」って私が言ったら、「そうかしら」って言うんですよ(蓮池薫さんと混同して)。私の名前すら分からないのに、母はいつも「薫、薫」って、小さい頃の写真をなでながら「早く帰っておいで」と言っています。薫が26歳の時までの記憶で母は止まっているわけです。そして、「薫はまだ若いからお肉がいいんじゃないですか。お肉料理をたくさん作ってあげてください」って言うんです。だから本当にそれを聞くとですね、つらくつらくして、私は何とかして母に会わせてあげたい。「どんなことがあっても頑張るのよ」といつも励ましております。母は薫が帰って来たら、玄関で「お帰りなさい」って迎えるんだと練習をしておりますので、どうかみなさん、力を貸してください。

松本信宏さん(薫さんの弟)

私の家に兄がいなくなって2~3年後くらいからお巡りさんが来るようになったんです。年寄りの家庭だから、年寄りたちや小さい子どものいる家庭だから見回っている」と言って来たんです。その(北朝鮮から石岡さんが出した)手紙が来て、神戸の有本さんと連絡を取るようになってから初めて言ったのが、「松本さん、どっかから手紙が届きましたか、連絡が来ませんでしたか」。母親が「誰にも言ったらダメよ」というタイプで、「なんですか」と思ったものです。兄の身に何か起こるかもしれないということもあつたんでしょう。石岡家も有本家も、やるときは一緒に、何となく暗黙の了解があつたんですよ。表に出ることを控えようと。

その当時よど号の妻たちのアパートに、兄と石岡さんが出入りしてたもんですから、一度ならず二度までも夕刊紙に、色仕掛けと書かれたことがありました。「松本さんとよど号の森順子っていうのは、肉体関係があつたんですか」と、テレビのプロデューサーに聞かれたこともあります。放送はされませんでした。私なんか隣でぐっぐつと息を飲み込むばかりで、「何ということ聞いてくれるんだ」と。うちの家では松本薫の名誉を傷つけられるようなことについては、どんなことをしてでも抗議するというポリシーがありました。うちの母親

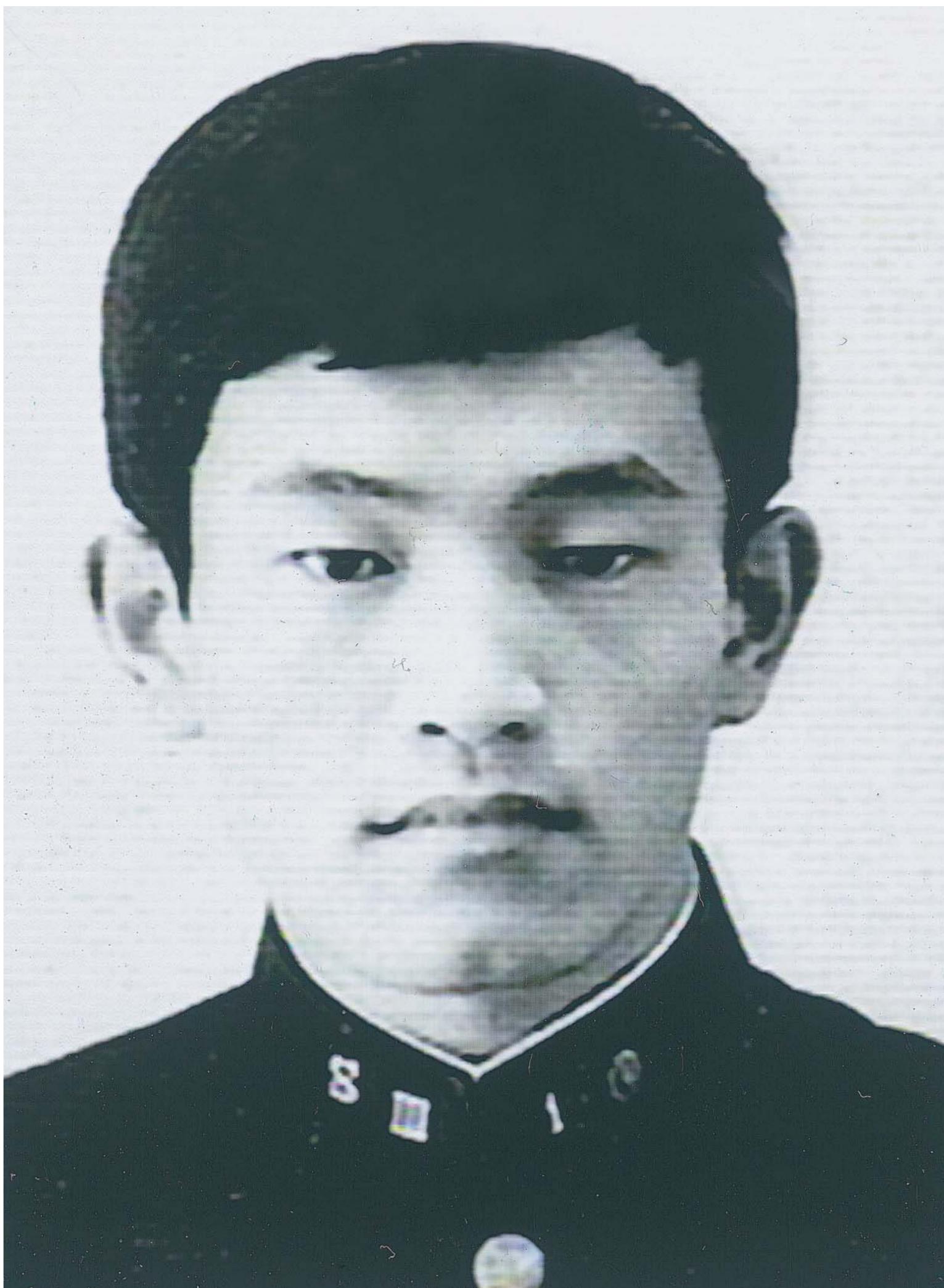
が泣くようなことをするやつは絶対に許さないぞ、と思つていました。





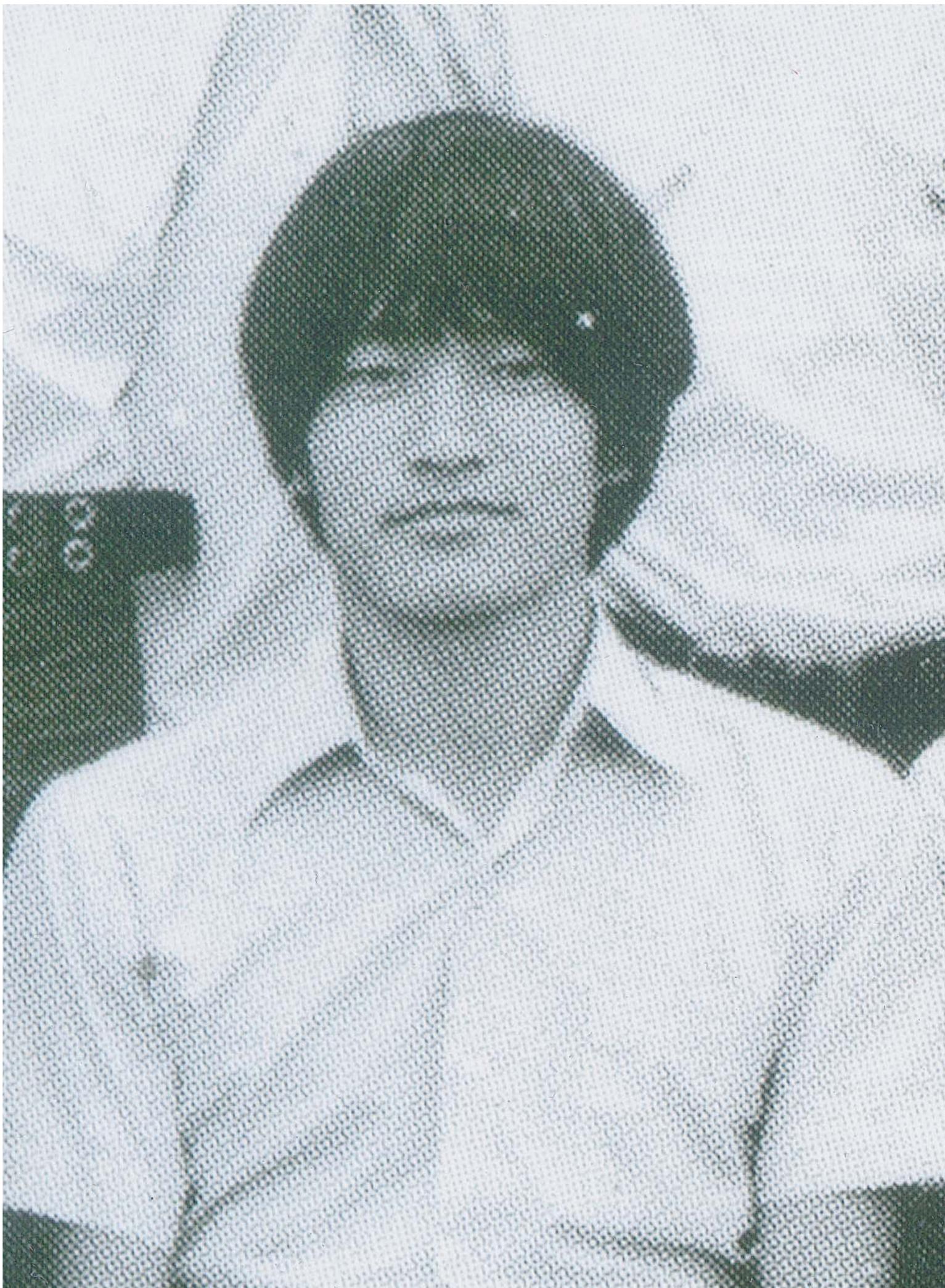
松木 薫さん①

小学生の頃、父・益雄さんのバイクにまたがって。
——母は薫の写真を撫でながら「早く帰っておいで」と
言って涙を流します(姉・文代)



松木 薫さん②

熊本九州学院高等科在学当時。
——私より八つ年下の薫のピリッとした高校時代の顔が眼に浮かび、楽しかった頃の家族の笑顔を思い出します(姉・文代)



松木 薫さん③

長崎外国語短期大学の卒業記念写真。
——大学のスペイン語暗唱大会で1位にな
った薫が父に報告していたことを思い出
し、「未だに助けてやることができなくて
ごめんね」と話しかけています(姉・文代)



松木 薫さん④ 母・スナヨさん(左から2人目)、叔父家族とともに阿蘇山へりんご狩りに出かけたときの薫さん(左端)。京都外国語大学大学院生当時。



松木 薫さん⑤

京都外国語大学大学院在学中、友人と肩を組んで(中央)。

——薫が帰ってきたら、友人たちと昔話が出来るといいね…(姉・文代)